



発行所 秋田魁新報社
〒010-8601
秋田市山王臨海町1番1号
©秋田魁新報社 2021年

号外

購読申し込み
0120-13-1231

電子版
www.sakigake.jp

モバイル
m.sakigake.jp



詳しくは「秋田魁新報朝刊」秋田魁新報電子版「さきがけMOBILE」をご覧ください。

「縄文」世界遺産登録

白神に続き、本県2件目

オンラインで開催中の国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界遺産委員会は27日、本県の大湯環状列石(鹿角市)や伊勢堂岱遺跡(北秋田市)を含む17遺跡で構成する「北海道・北東北の縄文遺跡群」(北海道・青森、岩手、秋田)の世界文化遺産登録を決定した。

では国内最古。本県の世界遺産は白神山地に続き2件目で、文化遺産は初めて。委員会は「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」(鹿児島、沖縄)の自然遺産登録も決めており、日本の世界遺産は、文化20、自然5の計25件となった。

丸山遺跡(青森市)、縄文前・中期の海岸線の変化に連動してつくられた5カ所の目塚がある北黄金目塚(北海道伊達市)、火を使った祭祀を行ったとみられる獣の骨などが見つかった御所野遺跡(岩手県一戸町)など。大湯環状列石と三内丸山遺跡は国の特別史跡、他の15遺跡は史跡に指定されている。

された。政府は自然遺産を優先して19年は奄美・沖縄を推薦し、遺跡群を1年先送りした。ユネスコの諮問機関は今年5月、「定住社会の発展段階を示している」として登録を勧告した。



世界文化遺産の登録が決まった「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する鹿角市の大湯環状列石①と、北秋田市の伊勢堂岱遺跡②(いずれも小型無人機で5月15日撮影)

つ複合遺産がある。前回2019年の世界遺産委員会までに登録されたのは869件で、自然や複合を含む総数1121件の8割近くを占める。締約国が候補を推薦し、締約国の代表で構成する世界遺産委員会が諮問機関の勧告を踏まえて登録の可否を決める。

世界文化遺産
1975年に発効した世界遺産条約に基づき、ユネスコが人類共通の財産として登録する。文化遺産は歴史的建造物や遺跡が対象で、ほかに貴重な生態系などの自然遺産、文化と自然の要素を併せ持